第3回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会　議事録概要版

【テーマ】「（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンとりまとめ（素案）について」

意見テーマ①

「浦和のまちの将来像の基本理念と将来像、将来像のイメージについて」

「将来像を実現するためのまちづくりの方針、展開について」

意見テーマ②

「浦和のまちの将来の生活シーンについて」

【開催日】令和4年7月 22 日（金）　15:10～17:00

【参加者】隈研吾会長、安藤梢委員（事前収録）、坂井貴文委員、廣瀬通孝委員、向井亜紀委員、安河内眞美委員（事前収録）、市川淳平委員、三木康史委員、鳥羽三男委員、清水勇人座長

【意見概要】

意見テーマ①

（隈会長）

- ○　現在、世界の都市の潮流が大きく変わっていく時期。浦和は新しい潮流のトップランナーになれる可能性がある場所。
- ○　20 世紀の都市は、集中化、高層化し人間を詰め込むことが効率的という時代であり、情報技術が進展しても考えは変わらなかった。しかし、コロナにより、人間・環境のための都市を再構築しなければならない転機を迎えた。
- ○　浦和は都心の集中からうまく距離をとりつつ文化と伝統を持ち合わせている。今回のビジョンでは、浦和の良い距離感、蓄積にさらに磨きをかけ、未来に繋げていくという決意が感じられた。
- ○　浦和はこの転換期をうまく生かして、将来に浦和の資産をつなげていく可能性が見えたと感じた。
- ○　浦和の住民は浦和に対してプライドと愛情を持っており市民意識が高い。
- ○　ヒューマンスケールのまちで良さをつくるにはきめ細かな計画が必要で、そこに人間が絡んでいくことが大切。

（廣瀬委員）

- ○　昨年度はデジタルの重要性を話していたが、うまくビジョンに組み込んでもらえたと感じている。
- ○　ここ半年くらいの間で情報技術の分野で大きな動きがあり、メタバースが急速に広がりを見せ、デジタルの世界の中で価値を持つ様々な品物が流通を始めるなど、都市の活性化においてこういった経済活動がどうなっていくかが重要なところだと思う。
- ○　サイバー（仮想）空間ではいきなり世界と繋がることができるため、地理的な場所という話との違和感を感じやすい。リアルの浦和とのうまい繋がり方を考えることが価値になると思う。
- ○　在宅勤務のように働き方が変化したときに生活の拠点をどこに置くかとした際、浦和のヒューマンスケールなところ、プライドなどが強みになる。これにデジタルを上手に活用するイメージが出てくれば良いと思う。

（安河内委員）

- ○　別所沼から浦和駅まで歩いたが、歩きながら楽しむものが今一つ無い気がした。浦和の中山道という財産を活かし、昔をしのぶことができる雰囲気を感じながら歩けるようにしてほしい。

○　浦和画家が別所沼周辺に住んでいたことは過去のこととして、別所沼の良い雰囲気を画家、美術に限らずに創造することが楽しめて住んでみたいと思えるようなまちを作り、周辺の人も共に味わえるようなものを考えていったほうが良いのではないか。
○　子どもたちに美術館に行くなど様々な体験をさせることが、それぞれの特性や向いている物を見つける糧となる。

（坂井委員）

○　多様なライフスタイルを実現すること、浦和の文化教育スポーツを体感し楽しめるというコンセプトは共感できると思った。
○　最近の働き方改革は、自己実現を通して、自分の幸福度を向上させるということにつながる。
○　リカレント教育やリスキリング教育にアクセスしやすい場をつくることが大事。
○　都市の目指す方向としてはデジタル環境を整え、学びを進めるコンテンツを用意することであり、一方で実際に人々が集まって学べる環境づくりも大切で、それが浦和だけでなく市全体の教育のレベルアップに繋がる。

（鳥羽委員）

○　災害時には浦和駅周辺の施設との連携が大事で、食料や電力などの防災機能を備えた設備が必要。
○　電車やバス、タクシー、自転車などがシームレスにつながる、自家用車がなくても移動しやすいまちが理想。
○　まちの情報や魅力がリアルタイムで発信できる案内サインの設置などもしていくと良い。
○　駅としての役割を意識し、地域と繋がるプラットホームのイメージで、地域の方と長く幅の広い関係を作っていきたい。

（三木委員）

○　浦和は都心機能と緑が密接であり、大型商業施設と商店街が連携している多様性のあるまちという印象。
○　将来像に記載されているものをすでに浦和は持っていると思っていて、いかにアップデートしていくかが重要。
○　人の往来と人の住まいという二つの局面において、いかに浦和のスポーツや文教都市といった魅力をアップデートして人の往来を増やせるか、また、住まう人にとっての機能をアップデートし、住まう方々を増やしていけるかが重要なポイント。
○　今後、浦和の方々と一緒に発展さていきたいと考えており、リアルな空間という我々の強みを生かしながら地域の方々の繋がる場所、繋がることなども商業施設として貢献していきたい。

（市川委員）

○　浦和駅西口の駅前ロータリーのリ・デザインについて、一般車両を進入禁止とし駅前の半分をバスとタクシーと身障者用のターミナル、もう半分は緑化部分を含む広場としてはどうか。
○　西口駅前と駅前広場を起点として、県庁通り沿道を再整備し、県都のイメージを強めても良いのではないか。
○　新旧住民が、ともに浦和の教育環境、治安をさらに高めていくと予想され、この好循環が持続可能なまちの安心安全に繋がる。
○　岸町緑道は季節の花々を感じられる。暗渠上の歩道整備を進め、緑のネットワークとできないか。
○　祭りは住民同士の接点、区民祭りは住民と行政の接点、また埼玉大学の公開市民講座は、大学と地域住民の接点と言える。様々な方面のいろいろな場面で沢山の接点を作ることが、コミュニティ形成や、地域の熟成と深化を図ることとなる。

（向井委員）
○　大宮と浦和は色々とライバルであるが、浦和はバブル時期の開発で、使いづらいまちになってしまった大宮を反面教師として学ぶべき。
○　浦和は押しの弱いところがあるが、それを良いところに変えて優しいつながりを持って発展していき、ゆっくりでもしっかり住みやすいまちになってほしい。
○　「人と人とのつながり」の先にある「デジタルのつながり」が持続可能な関係を生み出す。
○　無理をしない、頑張りすぎない持続可能な繋がりが浦和から広がっていくといいなと思うし、人生100 年時代に強い引力になると思う。
（安藤委員）
○　まちだけが成長しても持続可能とはならないので、基本理念にあるようにまちと人が一緒になってまちづくりを進めるということは素晴らしいと思う。
○　スポーツをする場所、見る場所が一体となった施設があると自然に人が集まってコミュニティが生まれ、まちの一体感へとつながっていくと思う。
○　浦和レッズが海外チームと対戦し、対戦国のサポーターが浦和を訪れたときに、住民とのコミュニティをつくったり、浦和をアピールできるともっと世界に浦和を知ってもらえると思う。
○　スポーツの中で培った課題解決力、実行力、忍耐力は浦和のまちを豊かにしていくのにとても役立つ力だと思う。

意見テーマ②
（隈会長）
○　DX とリアリティを組み合わせる夢のある部分と同時に、高齢化や子育てなどの色々な課題問題を解決していかなければならない。
○　そのようなリアリティのある問題解決の時にも DX が入ってくると考えられる。
○　こうした問題解決をする時に、その解決のプロセスで満足感や充実感が得られ、まちに対する愛情が深まってくると考えられるので、将来の生活シーンは、そういう部分のイメージを膨らませたらよいのではと思う。
○　そういうことが出てくると計画に深みが出て、より賛同を得られる。
（廣瀬委員）
○　DX から遠い高齢者にどういった福音がもたらされるかといったイメージを深堀するとよい。
○　私は、明るい寝たきり生活が良いと思っている。仕事をしなくなり、コミュニティから切られていく。リアルだと外に出るのが難しくなるが、リモートだと家にいながら生活ができるところが重要。
○　２０世紀の社会では、サラリーマンが１日中外へ出て働いている時代であったが、今後、明るい在宅をやるには家が楽しい場所である必要がある。そうしたことをターゲットにして DX を前提に考え直すことも浦和のまちをよくするうえで重要。
○　デジタルは突然のトラブル等の危うさもあるので、これから情報技術を追うのであれば、市民生活の基盤としてそれらを守っていくことも重要。
（坂井委員）
○　将来の生活シーンについて、2050 年の大学の教員として考える。
○　研究施設と自宅が近くにあり、授業を行うがまちに教室がありそこに学生も来る。授業は対面だがネ

ットでも配信し、海外の人も聞ける。
○　デジタル空間がまち全体に広がっていてその中にアクセスができるので、どこでも仕事ができる。
○　年代を超えて、人と人とのふれあいができるような場があると人生が豊かになると思う。
○　寝たきりでもデジタル空間を利用して家族とつながりたい。寝たきりでも移動できるモビリティがあるといい。

（鳥羽委員）

○　浦和駅は、お客様の質が良いと感じている。県都としての風格、心の豊かさがあるからだと思う。
○　３０年後も今の浦和にある魅力を残していってほしい。
○　駅東西には混みあっているいい雰囲気の小路がある。これはほかの地域にはなかなかないと思う。ストリートにストーリーを感じられる道とともに年齢を重ねたい。

（三木委員）

○　浦和のお客様は非常にいいお客様、その生活レベルが高いというとちょっと語弊があるかもしれないが、そういった方が多い。これは、百貨店業界でも共通認識である。
○　浦和で手に入らないものはないといった状況をつくっていくのが 2050 年でも重要。
○　都内に出なくても浦和のリアルの商業施設を利用することで、都内や海外の商品を購買できるスタイルが浦和の新しい商業スタイルになるのではと思う。
○　モノからコトという生活スタイルの変化、浦和の方々の生活のアップデートのためのご提案も商業施設として取り組んでいきたい。これが浦和の独自性につながるのではと考えている。

（市川委員）

○　浦和駅西口で二度目の再開発があり、ネットショップで満足できない浦和の住民の需要を満たす。
○　駅前ロータリーの一体再開発も完了し、一部緑化された広場が整備され住民が集う場となっている。
○　県庁通りは拡幅され、沿道にはデザインコードが施された業務ビルが建ち始める。
○　高砂小の校舎も建替えられ、最新の教育設備を備え全国トップレベルになっている。

（向井委員）

○　私の考えた将来の浦和は、浦和に戻れば、何歳でも学びなおすことができるまち。
○　科学と、昔ながらの方法と、若い人と、お年を召した人、その組み合わせだからこそできる新しい世界があると思う。
○　これからの学びは、デジタルやオンラインがメインになるとは思うが、それと逆行するようなアートやアグリカルチャーなど、手触りや香りがあるものを学べる場ができたらいい。

（安河内委員）

○　高層マンションではなく、平屋で横のつながりのあるような安心感があるといい。
○　どの世代も快適に暮らしていける、そんなシーンを作ることの大切さを考えていってほしい。
○　浦和のまちの雰囲気とデジタルのいい部分をうまく活用していくブレインが必要。
○　なんでもデジタルのまちにしてしまうと、高齢者が住みにくくなるのでちょうどよいバランスのまちになるといいと思う。

（安藤委員）

○　景色のいいところで、自分が見たい映像をバーチャルで見ることができる。
○　友達とスポーツをしたい。デジタルの世界で実際にスポーツができたらよい。
○　周りに緑が多いところに住み、夜は浦和の食材を使って BBQ をしたい。浦和で取れた野菜をロボットが料理してくれるというのも実現できるとよい。

総括

（隈会長）

○　浦和のひとは、特別であると感じた。求めているレベルや生活スタイルのクオリティが高く、非常に成熟したまち。

○　SDGｓやウェルビーイング、ＤＸといったまちづくりのテーマは日本中で言われている。成熟した浦和の人々が満足する結果を生み出すのは非常にハードルが高い。だからこそうまく実現すれば、日本中のまち、世界中のまちから、浦和は新しい時代のリーダーだと納得していただけるものができるし、納得していただくものを作らないといけないのではと思う。

○　今日は、ハードルの高さと同時にやりがいのある仕事だと実感した。

以上